

田中芳樹

TOKUMA NOVELS 書下し長篇スペース・オペラ

銀河英雄伝説 10

落日篇





TOKUMA NOVELS

田中芳樹

銀河英雄伝説 10 落日篇

発行者 徳間康快

発行所 徳間書店

東京都港区東新橋一の一の十六 郵便番号 105-555

電話 三五七三・〇一一一 (大代表)

振替 〇〇一四〇〇-四四三九二

Yoshiki Tanaka ©1987

落丁・乱丁はおとりかえいたします

Printed in Japan

〈編集担当 小島浩郎〉

96B15g.j

ISBN4-19-153530-7

書下し長篇

オペラ

銀河

雄儀

説

10

落日篇

田中

樹蔵



徳間書店

江苏

工部局

TOKUMA NOVELS

目次

第一章 カイザーリン 皇妃誕生

13

第二章 動乱への誘い いざ

36

第三章 コズミック・モザイク

60

第四章 平和へ、流血經由

81

第五章 昏迷の惑星

102

第六章 シュツヒバルム・シュロス 柊 館炎上

122

第七章 クリムゲン・スアイロド 深紅の星路

143

第八章 ブリュンヒルト 美 姫は血を欲す

167

第九章 ゴールドエンルウエ 黄金獅子旗に光なし

191

第十章 夢、見果てたり

212

あとがき

239

本文挿画・鳴下幸久

銀河英雄伝説 10

●銀河帝国●

ルドルフ・フォン・ゴールデンバウム 宇宙暦三一〇年、銀河帝国を興し、ゴールデンバウム王朝・銀河帝国皇帝ルドルフ一世となる。帝国暦四二年没。

ラインハルト・フォン・ローエングラム 帝国暦四六七年（宇宙暦七七六年）生れ。篡奪して皇帝となり新王朝を開く。金髪と蒼氷色の瞳を持つ貴公子。戦争の天才。

アンネローゼ ラインハルトの姉。一五歳の時、皇帝フリードリヒ四世の後宮に納められ、グリューネワルト伯爵夫人となる。弟により大公妃となる。

ジークフリード・キルヒアイス 上級大将。ラインハルトの腹心。「リップシュタット戦役」（貴族連合軍との内戦）に勝利した後、暗殺者に襲われたラインハルトの楯となつて二一年の生涯を閉じる。死後、帝国元帥の称号を与えられる。

パウル・フォン・オーベルシュタイン 帝国元帥。軍務尚書。左右とも義眼で、ときとして異様な光を放つ。冷徹で鋭利。ウォルフガング・ミッターマイヤー 帝国元帥。用兵のスピードにおいて肩を並べる者はいない。「疾風ウォルフ」の異名がある。ロイエントールとともに帝国軍の双璧。宇宙艦隊司令長官。

オスカール・フォン・ロイエントール 帝国元帥。金銀妖瞳

（黒い右目と青い左目）の美男子。数々の戦いで武功をたて、その作戦指揮能力は高く評価されている。統帥本部総長から新領土総督。

フリッツ・ヨーゼフ・ビッテンフェルト 上級大将。「黒色槍騎兵」艦隊司令官。猛将であるが、用兵にやや柔軟性を欠く。カール・グスタフ・ケンプ 大将。かつては撃墜王。その後、勇猛な指揮官だったが、フェザーン回廊の要塞戦で戦死。

コルネリアス・ルッツ 上級大将。

アウグスト・ザムエル・ワーレン 上級大将。

エルネスト・メックリンガー 上級大将。「芸術家提督」の異称あり。

ナイトハルト・ミュラー 上級大将。「鉄壁ミュラー」の異称あり。

ウルリッヒ・ケスラー 上級大将。憲兵總監と首都防衛司令官を兼任。

エルウィン・ヨーゼフ二世 フリードリヒ四世亡きあとの幼年皇帝。亡命貴族によつて帝国首都オーディンからつれ出され、同盟首都ハイネセンで亡命政権の皇帝に擁立されるが、その後、行方不明。

フランツ・フォン・マリィンドルフ伯爵 国務尚書。

ヒルデガルド・フォン・マリィンドルフ マリィンドルフ伯

フランツの令嬢。通称ヒルダ。貴族連合がラインハルト派に敵対している時、ラインハルトに味方し、忠誠を誓う。ラインハルトの首席秘書官。大本営幕僚総監。

リヒテンラーデ公クラウス 帝国宰相。ラインハルト一派のクーデターで死亡。

オットー・フォン・ブラウン シュヴァイク公 大貴族連合盟主。「リップシュタット戦役」で敗れた後、自決。

アンスバッハ 准将。ブラウンシュヴァイク公の忠実な腹心。

主君の誓をうつためラインハルトの命を狙うが、キルヒアイスに阻まれて未遂に終る。毒を飲んで自害。

アーダルベルト・フォン・ファールンハイト 上級大将。

カール・ロベルト・シュタインメッツ 上級大将。

ヘルムート・レンネンカンブ 上級大将。自由惑星同盟駐在の帝国高等弁務官。

エルンスト・フォン・アイゼナツハ 上級大将。

ウェルナー・アルトリンゲン 中將。

ロルフ・オットー・ブラウヒツチ 中將。

テオドール・フォン・リュッケ 少佐。ラインハルトの次席副官。

アルツール・フォン・シュトライト 中將。ラインハルトの首席副官。

ギウンター・キスリング 准将。ラインハルトの親衛隊長。ハンス・エドアルド・ベルゲングリューン 大将。ロイエンタールの幕僚。参謀長。

カール・エドワルド・バイエルライン 大将。ミッターマイヤーの幕僚。

ビュロー 大将。ミッターマイヤーの幕僚。

ドロイゼン 大将。

ジンツァー 大将。

トゥルナイゼン 中將。

ハイドリッヒ・ラング 内務省内国安全保障局長。

カール・ブラツケ 民政尚書。開明派の要人。

オイゲン・リヒター 財務尚書。開明派の要人。

ブルックドルフ 司法尚書。

シルヴァーベルヒ 工部尚書。

オスマイヤー 内務尚書。

エミール・ゼツレ少年 ラインハルトの近侍。

●自由惑星同盟● 宇宙暦五二七年（帝国暦二一八年）に成立。銀河帝国の専制政治に叛乱を起こした共和主義者たちが、半世紀にわたる苦難のすえ建国。

ヤン・ウェンリー 宇宙暦七六七年生れ。同盟軍元帥。イゼ

ルローン要塞司令官。駐留艦隊司令官。歴史学を学ぶために士官学校に入学したが、意に反して軍人になる。「エル・ファシルの戦い」で多くの民間人を救い、若き英雄となる。

ユリアン・ミンツ ヤンの養子。戦争孤児を軍人の家庭で養育するという法律によってヤンの被保護者となる。少尉に昇進と同時にヤンのもとを離れ、駐在武官としてフェザン自治領に赴任。ヤン亡き後、イゼルローン要塞司令官代行。中尉。フレデリカ・グリーンヒル 少佐。美貌と知性を兼ねそなえたヤンの副官だったが、ヤンと結婚して退役。

アレックス・キャゼルヌ 中將。イゼルローン要塞事務監から後方勤務本部長代理。ヤンの士官学校の先輩。デスクワークの達人にして毒舌家。

ワルター・フォン・シェーンコップ 中將。「薔薇の騎士」連隊長から要塞防衛指揮官。現在、下野。

フィッシャー 中將。宇宙艦隊副司令官。

ムライ 中將。参謀長。

パトリチェフ 准將。副参謀長。

ダステイ・アッテンボロー 中將。分艦隊司令官。

ラオ 大佐。分艦隊主任参謀。

グエン・バン・ヒュー 少將。猛将タイプの提督。戦死。

バグダツシュ 大佐。クラーデター派の工作員としてヤンのも

とに送られ叛乱軍の情報をもたらすが、スパイであることを見破られ寝返る。

ジェシカ・エドワーズ 代議員。反対派の急先鋒。「スタジ

アム」の虐殺」で犠牲となり死亡。

ウィリバルト・ヨアヒム・フォン・メルカッツ イゼルロー

ン要塞司令官顧問。元銀河帝国軍上級大将。名將と謳われる。

貴族連合軍の総指揮官としてラインハルト軍と戦い、敗れて

自由惑星同盟に亡命。中將待遇の客員提督となる。

ベルンハルト・フォン・シュナイダー メルカッツ提督の副

官。

ヨブ・トリューニヒト 同盟の元首。前最高評議会議長。

クブルスリー 大将。同盟軍統合作戦本部長。

シドニー・シトレ 元帥。前同盟軍統合作戦部長。アムリッ

ツァ会戦における敗北の責任をとって辞任。

アレクサンドル・ビュコック 大将。宇宙艦隊司令官。

ドーンソン 大将。クブルスリー大将がテロに襲われ負傷した

ため、統合作戦本部長代行をつとめる。

ドワイト・グリーンヒル 大将。国防委員会査閲部長。クラー

デターを計画、救国軍事会議の議長となる。後に自殺。フレ

デリカの父。

オリビエ・ポプラン 中佐。第一宙戦隊長。若き撃墜王。

ルイ・マシユンゴ 少尉。警護兵。

ホワン・ルイ 非トリューニヒト派の政治家。

ジョアン・レベロ 政治家。ピュコックの知人。現在、同盟最高評議会議長。

ヘンスロー 同盟からフェザーンへ派遣されている弁務官。ウォルター・アイランズ 国防委員長。

イワン・コーネフ 少佐。第二宙戦隊長。ポプランの僚友。

バーミリオン会戦で戦死。

バエッタ 中将。かつてのヤンの上司。

カスパー・リンツ 大佐。「薔薇の騎士」連隊長。

スーン・スール 少佐。ピュコックの副官。

チュン・ウー・チェン 大将。総参謀長。

カーテローゼ・フォン・クロイツェル 伍長。シェーンコツプの隠し子。

●フェザーン自治領● 銀河帝国と自由惑星同盟の中間に位置する商業貿易国家。

アドリアン・ルピンスキー 第五代自治領主。^{ランデスヘル}「フェザーンの黒狐」と言われている。

ボルテック 補佐官。ルピンスキーの腹心。

ボリス・コーネフ 独立商人。商船「ベリョースカ」号の船

長。ヤンの幼な友達。弁務官オフィスの一員として同盟首都ハイネセンに赴任。

マリネスク 独立商船「ベリョースカ」号の事務長。ボリス・

コーネフの腹心。

地球教総大主教^{グランド・ビショップ} 人類の中心を再び地球にしようと企む。

ルピンスキーの陰の支配者。

ルパート・ケッセルリンク 自治領主ルピンスキーの補佐官。実父であるルピンスキーの地位と権力を奪うため、殺そうとして逆に殺される。

ヨッフエン・フォン・レムシャイド 伯爵。元銀河帝国の高

等弁務官。フェザーンに亡命。「正統政府」首相兼國務尚書。

アルフレット・フォン・ランズベルク 伯爵。リップシュタ

ット戦役で敗れた貴族。フェザーンに亡命。「正統政府」軍務次官。

レオポルド・シューマツハ 元銀河帝国軍大佐。貴族連合軍の参謀をつとめた。敗戦後、部下をひきいてフェザーンに亡命。

ドミニク・サン・ピエール ルピンスキーの情人。元歌手、

ダンサー、女優。

デグスビー 地球教の主教。

第一章 皇妃誕生

I

星々の光が青玉色の滝となつて庭園に降りそそぐ冬の宵であつた。新帝国暦〇〇三年、宇宙暦八〇一年が、一時間を閲したとき、ラインハルト・フォン・ローエングラムは、大本営の中庭に参集した文武の高官たちにむかい、皇妃をむかえることを公表したのである。それを聞いたとき、高官たちは一瞬、沈黙の輪で若い美貌の皇帝をつつみ、ついで歓声をあげて彼を祝福した。ラインハルトが、女性ながら大本営幕僚總監の要職にあるヒルデガルド・フォン・マリィンドルフ、通称ヒルダの手をとったとき、誰かが熱っぽく叫んだ。

「皇妃ばんざい！」

その叫びは、まことに清新なものに感じられ、半瞬

おくれて、無数の追隨者を生んだ。

「皇妃ヒルデガルドばんざい！」

納得の気分が、おどろきを駆逐している。以前から、皇帝と伯爵令嬢との仲は、噂されており、その噂も、悪意にみちたものではなかった。

「皇帝ご夫妻に乾杯」

グラスがぶつかりあい、笑声がはじける。夜の庭園に充滿した陽気さは、ヒルダが六月初頭に出産の予定だと聞いて、さらに量をました。あらたなシャンペンが抜かれ、あらたな唱和が冬の夜気をかきまわした。

「皇太子殿下に乾杯」

「何の、お美しい皇女殿下に乾杯」

「いずれにしても、めでたしめでたしだ」

昨年があまりにも多事多端な年であつただけに、今年には平穩な吉き年であれ、との思いが強い。皇帝の婚約は、すべての吉事にさきがけて、平和と繁栄の年を象徴するかのうに感じられた。これで皇子が誕生すれば、ローエングラム王朝は一代かぎりで終わることもなくなくなる。父母いずれに似ても、美しく聡明な御子が誕生することであろう。人々の歓声は、おとろえる

ことを知らなかった。

年が明けて、ラインハルトの健康状態も良好なように見えた。もともと医者ざらいであるので、昨年の一〇月以来、宮廷づとめの侍医たちは、時間と技術の双方をもてあまして、彼らの間では、皇帝カイザーの間歇的な発熱と病臥びやうがに関して、ひそやかな討議がかわされておりました。皇帝カイザー病リヒト・クランクハイトという仮称がその症状に与えられていた。風邪と同様、それは病名というより症状名であつて、「変異性劇症膠原病」という名称が確定するのは、ラインハルトの死の直前であつた。

医師たちとしては、むしろこの時期、懐妊中のヒルダの健康と胎児の発育に対して、注意する必要があつた。ラインハルト自身が、そう指示したこともあつた。胎児の発育は順調で、出産予定日は六月一日ということであるが、最初の出産は、しばしば遅れるものであるから、一〇日ごろまで延びるかもしれない。とにかく、このまま無事にいけば、この年の半ばには、宇宙でもっとも知名度と期待度の高い乳児が、うぶ声をひびかせるはずであつた。

「私人として恋愛し、公人として結婚する」

とは、専制君主が結婚するに際して、しばしば使用される表現である。ただ、ラインハルトの場合、ヒルダとの関係が恋愛と称しえるものであるか、当時においても後世においても、意地の悪い疑問が提出されている。誰ひとりとして否定しえない事実は、ラインハルト個人とローエングラム王朝にとつて、ヒルダが必要な人間であつた、という点であつたろう。

「ローエングラム王朝を創つたのは皇帝カイザーラインハルトであるが、それを育てたのは皇妃カイザリンヒルデガルドである」という評文については、後世の歴史家たちの間で「最初に言つたのは自分だ」という、次元の低い争いが生じた。いずれにしても、ラインハルトとヒルダの結婚に異議をとねえる者はいなかつた。ヒルダの父であるマリィンドルフ伯フ란ツの温和な為人ひととなりが、人々の反感を買うものではなかつたことも一因であらう。

花嫁の父となる國務尚書フ란ツ・フォン・マリィンドルフ伯爵は、一月三日に、皇帝に対して辞意を表明した。皇帝カイザーラインハルトは、わずかに眉を動かしただけで、即答を避けた。義父となる人物の真意を、彼は洞察したが、後任もいままに國務尚書の座を空

